

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和5年3月15日

提出区分	実績	整理番号	5	課題区分	C		
横断的な課題	With/Afterコロナ時代においても選ばれる持続可能な山岳観光地域づくりの推進						
地域重点政策	1 北アルプスの恵みと人々の知恵を生かした産業の振興					北アルプス地域振興局	
実施機関	北アルプス地域振興局			担当課	所属	林務課	
事業名	北アルプス広葉樹のビジネス化				電話	0261-23-6522	
					E-mail	kitachi-rimmu@pref.nagano.lg.jp	
事業の概要等	目的 (目指す姿)	地域産業の発展と森林整備の推進に向けた「広葉樹林業のビジネス化」の促進					
	現状と課題	管内民有林の67%を占める主要な資源である広葉樹を活用した林業活動の活性化は、地域産業の健全な発展と森林整備の推進に寄与することが期待される一方、管内には広葉樹を活用したビジネスモデルが少ない。令和3年度のフォーラムをきっかけに、川下側の木工作家で地域の広葉樹の活用についての機運が高まっている。この機運をさらに高め、広葉樹の活用を推進していくためには、川上と川下を繋ぐ人材の育成とともに、地域住民へ広葉樹資源の魅力を伝達していく必要がある。					
	内容 (変更後の内容)	◆「広葉樹コンシェルジュ」の育成 多種多様な広葉樹資源の価値を高めて活用していくために、地域の広葉樹を活用する作り手や使い手と製材所や林業事業体を繋ぐ人材を育成するための研修会として、広葉樹活用フォーラムを令和4年9月22日(木)に開催 ○参集範囲: 林業事業体、市町村担当者、地域住民等 (約100名を参集予定・新型コロナウイルス感染症の状況により変更あり) ○現地研修会: 広葉樹皆伐地における天然更新の方法や有用広葉樹の育成について学ぶ 株式会社山川草木 香山由人氏、伊那市ミドリナ委員会 平賀裕子氏、 (株)飛驒の森でクマは踊る 松本剛氏 ○基調講演: 林業関係者や地域住民等と協働して広葉樹資源の魅力を発信する取組及び広葉樹製品の 高付加価値化やマーケティングなどの先進事例の紹介 伊那市ミドリナ委員会 平賀裕子氏、(株)飛驒の森でクマは踊る 松本剛氏 ○意見交換会: 講演会を踏まえた講師と参加者のグループディスカッション 株式会社山川草木 香山由人氏、伊那市ミドリナ委員会 平賀裕子氏、 (株)飛驒の森でクマは踊る 松本剛氏 ◆「北アルプス広葉樹製品モデル事業」 地域の広葉樹を製材、乾燥(人工乾燥、天然乾燥、ビニールハウス乾燥)した材を使用して、木工作家と連携して乾燥方法による加工性等の検証を行うことにより、地域産広葉樹材を活用した「北アルプス地域モデル製品」の開発、販売戦略を検討する。 また、製材については地域住民に対して公開(令和4年11月27日(日))することにより、地域の広葉樹を始めとした森林への興味や理解を深める機会とする。					
	事業期間	令和4年7月 ～ 令和5年3月					
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考			
	北アルプス広葉樹活用フォーラム事前打合せ	講師謝金	12,800				
	北アルプス広葉樹活用フォーラム	講師謝金	115,200				
	北アルプス広葉樹製品モデル事業	広葉樹製材用原木等	92,000				
	合 計		220,000				
指標及び達成状況	成 果 指 標		目標値	成果	達 成 状 況		
	広葉樹活用フォーラム参加者の満足度		70%	90%	● 達成		
	北アルプス広葉樹モデル製品製作者数		3者	3者	○ 一部達成		
					○ 未達成		
事業実績・成果	◆「広葉樹コンシェルジュ」の育成 ○実績: 9月27日(木)10:00～12:00 現地研修会 参加者44名、13:00～17:00 フォーラム83名 ○成果: 林業関係者や既に広葉樹を活用している方だけではなく、林業関係者以外の広葉樹の活用に関心を持つ方の参加があり、アンケートで満足度が90%となるなど多方面の方に広葉樹に興味を持っていただく機会となった。 ◆「北アルプス広葉樹製品モデル事業」 ○実績: 10月31日(月)広葉樹製品製作者募集開始、11月4日(金)募集締切(3者応募)、11月27日(日)広葉樹材5樹種を製材、12月2日(金)～製材した材の天然乾燥を開始(随時乾燥経過の情報を製作者と共有) ○成果: 地域材の活用を希望している管内の木工作家3者から応募があり、製材から木工作家に関わりを持っていただくことにより広葉樹を活用していくための課題(製材歩留り、乾燥技術)等について共有が図られた。乾燥に期間を要するため、令和5年度も引き続き木工作家と連携してモデル製品の検討を行っていく。 また、11月27日(日)に地域住民に公開して行った製材には750名の来場があり、多くの住民に対して広葉樹に対する興味や理解を深める機会となった。						
今後の方向性	フォーラム参加者のアンケート結果や製材時の来場者数から、地域における広葉樹活用への関心の高さが確認できたことから、ニーズを把握したうえで研修会等を開催し広葉樹の活用を担う人材を引き続き育成していく。広葉樹製品について、木工作家と乾燥に関する情報共有を図るとともに、乾燥方法による製作の課題等についても検証していく。						